

# 「アノニマス・ピープル ～回復者の顔と声～」上映会&えんたくシンポジウム 次第

2017年5月20日(土)14:00~20:00

キャンパスプラザ京都2階ホール

	総合司会 浅井 登 (断酒会)
14:30	開会のあいさつ 実行委員長 加藤 武士 (木津川ダルク)
14:35	報道映像視聴 リカバリー・パレード「回復の祭典」in 関西(2016年)
14:45	講演 「新しい回復擁護運動について」 麻生 克郎 (垂水病院)
15:45	休憩
16:00	上映会 「アノニマス・ピープル ～回復者の顔と声～」
17:30	休憩
17:45	えんたくシェアリング ファシリテーター 土山 希美枝 (龍谷大学) 薬物依存回復者、家族、精神科医、保健行政関係者、刑事司法福祉関係者、他
19:30	コーラス隊
20:00	閉会のあいさつ

アノニマス・ピープル～回復者の顔と声～

新しい回復擁護運動 (New Recovery Advocacy Movement) は回復のプログラムではなく、様々な回復プログラムを提供しているグループや施設などにつながりやすくするための、言い換えれば回復しやすい社会をつくるための運動です。この運動にアノニマスグループのメンバーが参加するときは、アノニマスグループの伝統に基づいて自分が属するグループは明かさず、回復した一市民として参加します。

日本ではリカバリー・パレード「回復の祭典」が新しい回復擁護運動を繰り広げています。

リカバリー・パレード「回復の祭典」趣旨

- (1) 私たちは回復者、家族、友人、支援者、賛同者と一緒に回復の喜びを分かち合い、回復があることを社会にアピールします。
- (2) 私たちは依存症、心の病から回復するための手助けをします。
- (3) 私たちは回復者 (団体) 同士の交流を深め、社会との協力関係をつくります。

「回復」について

「回復」とは何でしょうか。

私たちは何が回復か (何が回復でないか) を決めません。その人本人が、以前より良くなったことを喜べるのなら、それが「回復」です。特定のグループ (例えば 12 ステップグループ) の回復の考え方を採用することもしません。回復は人それぞれです。

合言葉は『回復』

私たちが直面した病気・困難の状況、あるいは回復の仕方は、様々です。その私たちが共通して示すことができる「回復」を合言葉にしよう! とする中で「依存症、精神障がい、生きづらさからの回復」と表すことになりました。参加者の一人一人が、いずれかあるいはいくつかに当てはまる言葉になっています。

【お問合せ】 0774-51-6597 (木津川ダルク) E-mail: recoveryparade\_kansai@yahoo.co.jp

【主催】 リカバリー・パレード関西実行委員会

龍谷大学犯罪学研究センター

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)社会技術研究開発センター(RISTEX)

「安全な暮らしをつくる新しい公/私空間の構築」研究開発領域 採択プロジェクト

「多様化する嗜癖・嗜虐行動からの回復を支援するネットワークの構築」(代表・石塚伸一)

【後援】 龍谷大学矯正・保護総合センター刑事司法未来PJ/京都DARC/京都MAC/FREEDOM/大阪DARC/大阪MAC/木津川DARC